

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531184

研究課題名(和文) 中等国語科教員に必要な「古典力」育成のための教育プログラム開発

研究課題名(英文) Education program to foster the development of " Teaching faculty of Traditional language and culture matters " needed to secondary teachers of Japanese languages

研究代表者

三宅 晶子 (Miyake, Akiko)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：20181993

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)： 教員志望の大学生が、それまでに受けた古典の授業と、それについて持っている印象について、継続的に実態調査を行った。大学教員・学生・現職教員による研究会を開催し、積極的に古典を学び、教えたいという意欲を与えるカリキュラムと方法について検討した。それらの成果に基づき、『古典教育デザイン』という研究誌を創刊した。

複眼で見る能のテキスト開発として、3年間で5曲の能を取り上げ、テキストを作成した。

研究成果の概要(英文)： We surveyed the students who will be teacher about their Japanese classical literature. Professor Student and Teachers held a study group and we thought a better approach actively learning the classic. Now we have created, the text of "Education Design of Classical Literature".

研究分野：社会科学

キーワード：古典教育 教育デザイン 古文 漢文 伝統的言語文化 古典芸能 伝統工芸 能・狂言

### 1. 研究開始当初の背景

平成21年度から施行された新学習指導要領では、初等・中等教育において、伝統的言語文化の事項が一般的に重視された。小学校から古典教育が開始された後、中学・高校でどのように連続・発展的な教育が可能であるかを考える時期に来ている。現在の中学・高校では、古典の文章や内容の難しさが先に立ち、古典嫌いの生徒が多い。これが大学まで尾を引き、結局、紀要院志望の大学生に於いても、その傾向は変わらない。教える側の教師でさえ、古典に興味を持っておらず、苦手な人が多いのが現状である。彼らがすでに、中学・高校時代に古典嫌いになってしまった世代なのだから、当然ともいえよう。

計画的教員養成を目的とする大学に在職し、初等・中等教育現場の教員とも接する機会が多い立場として、如何にして古典の好きな、得意な教員をそだてるかということが、急務であると考えている。

平成21年度～23年度の三年間で、「小学校教員に必要な「古典力」育成のための教育プログラム開発」という研究課題によって、科学研究費助成金、基盤研究(C)の交付を受け、研究を遂行したのを受け、今回は中等国語科教員に研究対象を移して、継続的に研究を行うこととした。

### 2. 研究の目的

研究代表者が携わってきた、古典文学研究において培われた読解力・知識・考え方を基盤に据えながらも、現代という時代に即応した実践的な大学教育カリキュラム開発を目指す。

本研究課題で用いている「古典力」とは、日本の伝統的言語文化の事項全般を継承・発展させ、更には国際人として将来必要となるような日本人の基本的教養という意味において、日本の歴史や文化、古い時代の生活習慣の全般にわたる、古典に対する知識・能力という意味で使用している。本研究は、大学教育、あるいは現職教員も含む社会人教育を通じて、中等国語科教員に必要とされる「古典力」を育成するための体系的なプログラムを開発するものである。

### 3. 研究の方法

#### 3つの観点からのアプローチ

#### (1)「古典力」調査アンケートの実施

前年度までの成果を踏まえ、アンケートの方法、質問内容などの適不適を検討の上、改良する。

平成24～26年度の学生たちにも、改良型のアンケートを実施する。

各年度のアンケート結果を集計、分析し、報告する。

「古典力」調査の方法、アンケートの方法をたえず改良して、時代に合わせる工夫をする。

#### (2) 今必要な教育内容の提示・教材・授業方法の開発

大学院教育学研究科の授業と関連づけ、古典関係の教科書と指導書の内容を体系的に調査し、新指導要領に基づく新しい教科書が、従来のものとどう違うか、またその内容の特色と問題点を様々な角度から検討する。

#### (3) 複眼で見る能のテキスト開発を行う。3年間で5曲の曲について、能の撮影と、その画像の編集を行って、新しい教材の提案をする。

### 4. 研究成果

#### (1)「古典力」調査アンケートの実施

平成20年度から始めた「古典力」調査アンケートも本年度で7回目となり、その間のデータの蓄積と分析、学生の質や意識の変化について、総合的見地からの検討を行った。

横浜国立大学教育人間科学部学校教育課程1年次必修の小教専国語の授業を利用して、一年生全員230名を対象に、古典の読解力・基礎知識の学力調査を行った。協力者の近藤弘子が平成24年度分を、山田香織が平成25年度分のデータ入力・分析をその結果と考察はそれぞれ『横浜国大国語教育研究』第38号と40号に発表している。

平成26年度分に関しては、現在分析中である。

の調査結果を考慮して、古文・漢文の例文と設問を変更した。高校までの古文の授業時間数の減少と、興味の現象にともない、問題文の読解能力と意欲が低下している現状に対応する必要があることが判明した。

過去六年間の推移とその特色に関して、全体的傾向を分析し、講評すべく、現在準備中である。

今後もできる限り、アンケート調査を実施し、公表していく。

#### (2) 今必要な教育内容の提示・教材・授業方法の開発

平成21年度に設立した古典教育デザイン研究会を継続、特に研究会誌『古典教育デザイン』創刊をめざして、研究会を行った。

大学院教育学研究科における古典教育を専門とする学生や、卒業生を中心に、授業の発展的継続として、研究会を開催した。

当初は大学院の授業の他に、月一回程度の研究会を開催する予定であったが、研究代表者も参加者も、あまりに時間的余裕がなく、無理なく充実した時間を確保するために、夏期休暇中・春期休暇中の二回、大会を開催することに変更した。その結果、毎回30名前後の参加者が集まり、活発な意見交換がなされた。

この研究会での成果をもとに、研究会誌

『古典教育デザイン』(2015、5、31)を創刊の運びとなった。目次は次の通りである。

巻頭言

『古典教育デザイン』刊行によせて  
三宅晶子

文学研究の立場から

負の感情から読み解く『源氏物語』 光

源氏の嫉妬 横内あゆみ

玉鬘十帖における男踏歌の役割

安野葵

『平家物語』覚一本における和漢混淆文  
のあり方 内山唯

国語教育の立場から

中学校一年生の古典導入教材とその指  
導について 高橋あずみ

「身につけさせたい力」を明確にした小  
学校高学年の古典学習

『枕草子』 小水亮子

「児のそら寝」に関する一考察 『宇治  
拾遺物語』から新たな入門教材を探  
る 西本はる華

高校教科書『源氏物語』に対する提案

「花宴」巻の採録 原翔太

図版を活用した「東下り」読解指導

那須充英

高等学校国語科の古典学習にける享受  
的視点の導入

『伊勢物語』「筒井筒」と能 井  
筒 を例に 窪田祐紀

古典教育デザイン研究会の構成メンバ  
ーは、研究代表者の教え子を中心としており、  
希望すればだれでも入会可能な会として、活  
動している。会誌はその会員に配布するが、  
本年度中には、ホームページ上に Web 公開す  
る予定である。

科研費によって古典関連の教科書と指導  
書を体系的に収集したので、研究室において、  
教材研究が可能な環境が整備されたのも、成  
果の一つであろう。

今後も研究会活動を継続し、年会誌として、  
会誌も発行していく。

### (3) 複眼で見る能のテキスト開発

本研究以前に3曲4種類の能について、3  
台のカメラで撮影した情報を、取捨選択する  
ことなくすべて、一画面に合成した3面マル  
チ画面映像と、その中の1曲について、魅力  
的な場面の画像のみ摘出して、場面ごとに、  
能の詞章と解説文を付けた紙媒体のテキス  
トを作成した経験がある。

本研究はその経験を生かして、さらに進ん  
だプロジェクトを立ち上げ、業者委託による  
高額予算でないと撮影できないような映像  
ではなく、ハイビジョンカメラの購入と研究  
協力者による撮影、編集を可能とする事を目  
的としていた。横浜能楽堂んぼ全面的協力に  
よって、希望する演能を希望する座席から撮  
影することが可能となった。

三年間で三台のハイビジョンカメラを購  
入した。当初の予定では2台のカメラで対応

したいと考えていたが、結果的には三台必要  
とであった。

二台で対応しようと考えていたのは、正面  
席と脇正面席から一台ずつ、フラット画面で  
撮影することは、研究代表者があらかじめ指  
導しておけば、能のことをよく知らない協力  
者でも、撮影可能であるし、ハイビジョンカ  
メラの性能は、その画像から部分的に拡大し  
た画像を利用すれば、紙媒体のテキストとし  
ては、十分対応可能だろうと考えたからであ  
った。しかしプロ仕様カメラは、撮影技術  
が高度であり、最初の年は機材が十分揃っ  
ていなかったこともあり、1曲のみ試し撮りの  
つもりでいたが、ピントがあまく、使用に耐  
えない物となってしまった。

二年目にはそろいのカメラを二台購入し、  
平成25年8月3日横浜能楽堂観世流 土蜘蛛、  
9月1日横浜能楽堂 敦盛 の撮影を  
行った。データ取り出しも自力で成功し、正  
面と脇正面から撮影した2種類の画像が、そ  
れぞれの能で獲得できた。しかし、それを同  
一画面上に合成することが研究代表者の知  
識と経験では不可能であり、次年度には専門  
家に依頼して、その指導と作成をお願いす  
ることとした。

三年目は前の二年間の経験を生かして、撮  
影の段階から専門家に指導を依頼し、平成2  
6年12月23日横浜能楽堂宝生流 蝉丸、  
平成27年2月21日横浜能楽堂観世流 綾  
鼓 の撮影を行った。今回は協力者の正面・  
脇正面からのフラット画面による撮影に加  
え、専門家による正面からのアップによる撮  
影も含めて、3種類の撮影を行った。これを  
専門家に依頼してデータ処理を行い、3画面  
と能の詞章を入れたマルチ画像の映像デー  
タ作成、DVDに保存して、関係者へ配布し  
た。

ここから適当な静止画像を取りだし、詞章  
と場面解説を組み合わせた紙面によるテク  
ストを作成したいと考えている。

データが膨大で、業務用のパソコン、ソフ  
トを使用しないと、邯鄲にはデータ処理が行  
えないことが判明したこと、画面合成の方法  
として、正面・脇正面・アップ・詞章をどの  
場所に組み合わせるのが良いのか、目下考慮  
中である。

一応ハイビジョンカメラとパソコン、画像  
編集ソフトは揃ったが、データ読み込みソフ  
トが足りないのも、それを今後手に入れて、  
自由に編集できる環境を整えた上で、これま  
でに撮影した画像の編集も行い、横浜能楽堂  
における継続的な撮影も実施していきたい。

映像権の問題があって、簡単に紙面公開も  
難しいので、当初計画した印刷配布は、まだ  
できない状態であるが、将来的にはそれをク  
リアして、広く教材として活用してもらいた  
いと考えている。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

三宅晶子 動き出すことば、能と狂言、  
査読無、第12号、2014、44 - 56

三宅晶子 類型化以前の靈験能 - 田村  
を中心に -、能と狂言、第12号、2014、  
104 - 113

三宅晶子、元気づく古典、国語研究、査  
読無、60集、2014、30 - 46

三宅晶子、金春禅竹の能小考 - 定家  
と百人一首・姨捨の作者 -、国語と国  
文学、査読有、1079号、2013年、3  
- 18

三宅晶子、創生期の能の魅力 - 夢と現の  
間 -、観世、査読無、80巻 - 9号、2013  
年、26 - 37

三宅晶子 『申楽談義』世阿弥が語ったこ  
と、語らなかつたこと、能と狂言、査読  
有、11号、2013、113 - 124

〔学会発表〕(計4件)

三宅晶子、元気づく古典、新潟県高等学  
校教育研究会国語部会(招待講演)、2013、  
10、25、上越高田高等学校

三宅晶子、類型化以前の靈験能 - 田村  
を中心に -、能楽学会世阿弥忌セミナー、  
2013、8、8、奈良国立博物館講堂

三宅晶子、動き出すことば、能楽学会(招  
待講演)、2013、5、25、早稲田大学小野記  
念講堂

三宅晶子、『申楽談義』世阿弥の語ったこ  
と、語らなかつたこと、2012、8、8、奈良  
国立博物館講堂

〔図書〕(計2件)

三宅晶子、シリーズ対訳で楽しむ 砧、  
檜書店、2014、30

三宅晶子、シリーズ対訳で楽しむ 班女、  
檜書店、2012、30

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：

取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
研究者総覧 [er-web.jmk.ynu.ac.jp](http://er-web.jmk.ynu.ac.jp)  
古典教育デザイン研究会  
kotened.webcrow.jp

6. 研究組織

(1) 研究代表者  
三宅晶子 (MIYAKE AKIKO)  
横浜国立大学・教育人間科学部・教授  
研究者番号：20181993

(2) 研究分担者  
( )

研究者番号：

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号：